

コラム ◇賽金花さいきんか（一八七二—一九三六）

江蘇塩城県生まれ、本名、傅彩雲ふさいぐん。家が貧しく、父母によって一三歳で妓女として売られる。一四歳のとき、科擧に合格して状元になった洪文卿（洪鈞）という男性に身請けされ、彼の妾となる。洪文卿がロシア、ドイツ、オーストリア、オランダに公使として渡る際に「妻」として付き添い、その後三年間、公使夫人として外国暮らしをした。

当時、中国では伝統的な規範によって良家の女性は家から出ず、ましてや外国の男性と握手したり、抱き合う挨拶をしたりするなどありえなかった。そこで洪は妻ではなく、男性との対応になれた傅彩雲を伴ったのだった。彼女は政治外交の場でも社交上手で、滞在した国の言葉をおぼえ使えるほどになった。



帰国後まもなくして洪文卿が死去すると、洪家から家名を汚したとされ、北京で暮らさないこと、傅彩雲の名を使わないことなどを求められ、

洪家を追われる身となる。生活に困窮し、再び上海で妓女となり曹夢蘭と改名した。しかし洪家からたびたび干渉され、その後は天津に移り、賽金花と名乗り、妓女として人氣を博した。四七歳のときに参議院議員で民政庁長の魏斯耿と結婚した。九年後に彼は病死し、賽金花は魏家に入ってもみえず、北京に移り、孤独で貧しい生活のうちに六四歳の生涯を閉じた。

一九〇〇年、八カ国連合軍が北京に攻め入ったとき、賽金花は連合軍総司令ワルデルセーやドイツ公使夫人と接触をして李鴻章とともに国のために尽くし、救国の英雄と称された。かつてベルリンの舞踏会でワルデルセーと知りあっただけだったが、この出来事が脚色され、義和団事件を中心に彼女の生き様や活躍ぶりを描いた作品が金東方、熊伝西、劉半農、夏衍、張恨水、會樸などの手によって作られた。多くの作品が賽金花とワルデルセーが親密な仲であったというラブロマンスを付け加え、賽金花は非常に聡明かつ社交的な近代型の女性に理想化されて描かれている。

（仙石知子）